

<p>1 学校教育目標 教育目標…高い志をもち、つながりを大切にする阿武町っ子の育成 中・長期目標…美(場を清める)礼(礼を尽くす)時(時間を守り大切に) ～笑顔あふれる学校～【きづく・きめる・かかわる・やりぬく】の育成 ○生徒・教職員・保護者・地域が誇りをもち学校(阿武中PRIDE) ○生徒一人ひとりが自己実現をめざす学校(阿武中で学んでよかった)</p>

<p>2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて) 【学校】[よさ]教育環境の整備・充実 [課題]地域連携(地域貢献、学校支援、学校運営の機能)の推進、充実、情報提供(ホームページ等)の充実 【生徒】[よさ]落ち着いた学校生活、素直で純朴な者が多い [課題]コミュニケーション能力(あいさつ)、学力向上、家庭学習(宿題)の充実 【教師】[よさ]与えられた職務に専念、誠実に役割を果たそうとする気運が強い [課題]組織的な関わり、授業改善、業務改善への意識 【保護者・地域】[よさ]活発な地域行事、学校教育に関する理解と支援 [課題]課題の共有、協働</p>

<p>3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題 ①確かな学力の育成(基礎基本の定着、学習に向かう意欲の醸成、主体的・対話的で深い学びの実現をめざす授業実践) ②心の教育の充実(魅力ある道徳授業・評価の研究、ローテーション授業や地域人材を活用した多様な道徳的価値観に触れる授業づくり) ③ふるさとを愛する生徒の育成(系統性のある総合的な学習の時間の実践、コミュニケーション能力の育成、地域貢献ボランティア活動の実践) ④小中連携教育の推進(育てたい心・力の具現化、小中の系統を意識した活動の展開等)</p>

4 自己評価					5 学校関係者評価			
領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	評価	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望	評価	
学校運営	チャレンジ目標	チャレンジ目標(美・礼・時)を意識した生活を徹底する。	・チャレンジ目標の揭示 ・学期毎の達成度確認 ・機会をとらえた指導	4 評価アンケート3. 5点以上 3 評価アンケート3. 0点以上 2 評価アンケート2. 5点以上 1 評価アンケート2. 5点未満	3	【3. 1】チャレンジ目標 チャレンジ目標を意識させ、守り高めるものとして教師と生徒で意識を共有させる必要がある。より重点化した取組として継続したい。	・もう少し中学生と直接関わる場面が増えるとうい。 ・小中の「育てたい心・力」という同じ土俵で、授業力向上を町全体で取り組んで行く必要がある。 ・学校の努力はよく分かるが、外へは伝わりづらく、評価しづらい面がある。 ・ホームページ等情報発信に以前より取り組まれているように感じる。 ・自分からあいさつする生徒が少ないのが残念。 ・家庭との連携は、学年でも温度差があるように思う。 ・三校共通の目標のもと、学校運営に取り組んでおられることがこの一年間でよく伝わった。 ・感染予防により学校行事や地域行事が減少・中止されたことが多く、先生方や生徒も大変な思いをされたかと思えます。 ・町で会ったとき、生徒たちのあいさつはできています。 ・メール配信を活用して、情報発信をしてほしい。	3
	CSの推進(家庭・地域との連携)	家庭・地域と一体となった「開かれた学校」づくりを推進する。	・ホームページや学校だよりによる情報発信 ・学校サポーターの活用と拡充	4 評価アンケート3. 5点以上 3 評価アンケート3. 0点以上 2 評価アンケート2. 5点以上 1 評価アンケート2. 5点未満	3	【3. 2】地域連携① 家庭との連携をさらに進め、学校の取組に対する理解度が高めていきたい。学校ホームページの充実さらに取組、発信を意識したい。		
	地域貢献の推進	ボランティア活動や地域行事への積極的な参加、学校施設の利用を促進する。	・自己有用感をもたせる事前、事後指導 ・部活動練習日の配慮 ・学校だよりを通じた情報発信	4 評価アンケート3. 5点以上 3 評価アンケート3. 0点以上 2 評価アンケート2. 5点以上 1 評価アンケート2. 5点未満	3	【3. 1】地域連携② 感染防止のため、地域行事等も数が限られていたため、当初子どもたちが参加を計画していた活動が実施されなかったことも多かった。生徒会との連携で活動を仕組んでいく必要もある。		
	小中連携の推進	小学校と連携した教育実践を推進し、研修を実施する。	・英語授業への定期的な参加 ・小中互見授業の実施	4 評価アンケート3. 5点以上 3 評価アンケート3. 0点以上 2 評価アンケート2. 5点以上 1 評価アンケート2. 5点未満	3	【3. 0】小中連携 三校連携協議会を核とする授業研究に計画的に取り組めた。子ども同士の連携・協働場面をより多く仕組んでいきたいと考える。		
学習・心	学力向上	一人ひとりを大切にしたい「わかる・できる・楽しい」授業への改善を図る。	・「阿武中スタンダード」の徹底 ・ICTを活用した授業改善への取組 ・特別支援教育の視点を重視した授業づくり推進	4 評価アンケート3. 5点以上 3 評価アンケート3. 0点以上 2 評価アンケート2. 5点以上 1 評価アンケート2. 5点未満	3	【3. 1】授業改善・学力向上・ICT活用・特別支援教育 ICTの導入期にあたり、様々な教科で活用を試みており、さらに充実させたい。授業改善については、教職員の経験年数を問わず知識・技能の活用場面を生徒に保障する授業づくりが必要。	3	
	道徳教育の充実	多様な価値観に触れることができる魅力ある道徳授業を実践する。	・全教員によるローテーション授業や地域人材を活用した授業実践 ・ねらいを達成させる発問の工夫	4 評価アンケート3. 5点以上 3 評価アンケート3. 0点以上 2 評価アンケート2. 5点以上 1 評価アンケート2. 5点未満	3	【3. 4】道徳教育 地域人材の活用、TTIによる授業など、独自性を考慮した取組を進めることができた。研究の成果を、今後の取組にも生かしていきたい。		
	学校行事・感動体験の充実	生徒の主体性を伸ばし、充実感・感動を味わえる行事や活動を充実させる。	・ねらいや付きたい力の明確化 ・他の教科や活動と連携させた指導 ・事後指導の充実	4 評価アンケート3. 5点以上 3 評価アンケート3. 0点以上 2 評価アンケート2. 5点以上 1 評価アンケート2. 5点未満	3	【3. 1】体験活動 2学期は生徒の創意を生かした行事も実施し、満足度が高い様子うかがえた。ふるさと学習の繰り返しにより、多様な表現・発表の機会があったことも生徒の満足度の高い一因ではないか。		
環境・安全	生徒指導の充実	きめ細やかな生徒理解を基本にした生徒指導を推進する。	・毎朝の情報共有 ・週1アンケートによる実態把握 ・生徒指導主任を中心とした組織的な対応	4 評価アンケート3. 5点以上 3 評価アンケート3. 0点以上 2 評価アンケート2. 5点以上 1 評価アンケート2. 5点未満	3	【3. 1】生徒理解 「全生徒を全教職員で育てる」の原則のもと、日々のコミュニケーションや週1アンケート、デイリーライフを通して生徒理解や支援を進めているが、学年により若干の温度差も見られる。	3	
	生徒の主体性の育成	主体性を育む学級・生徒会活動を推進する。	・学級活動の充実 ・生徒会、委員会活動の活性化	4 評価アンケート3. 5点以上 3 評価アンケート3. 0点以上 2 評価アンケート2. 5点以上 1 評価アンケート2. 5点未満	3	【3. 2】生徒会活動 生徒会執行部の創意を生かした活動を経験させる必要がある。日常の活動に加え、生徒に考えさせる場面を多く準備したい。		
	環境整備の充実	校内の環境整備を計画的に実践する。	・環境整備委員会の活性化 ・地域や保護者と連携した活動の充実	4 評価アンケート3. 5点以上 3 評価アンケート3. 0点以上 2 評価アンケート2. 5点以上 1 評価アンケート2. 5点未満	3	【3. 4】環境整備・学校安全・コロナ対応 感染症対策は万全に行っている。奈古分校の生徒との合同園芸作業を継続して行った。作業日を地域に広報することで活動が充実する。		
健康・体力	生徒のメンタルケア	SC(スクールカウンセラー)と連携した相談活動を充実させる。	・客観的な資料の活用 ・週一アンケートの共有 ・相談時間の確保 ・ケース検討の充実	4 評価アンケート3. 5点以上 3 評価アンケート3. 0点以上 2 評価アンケート2. 5点以上 1 評価アンケート2. 5点未満	3	【3. 2】教育相談 週一アンケートは、全教職員が共有し、活用できた。SCと連携したケース検討会を計画的に開いたり、研修会を計画的に実施したりするなど、SC活用についてさらに充実させたい。	3	
	生活習慣の改善	学校や家庭における規則正しい生活リズムを定着させる。	・生活リズムチェック、睡眠日誌、ノメディアチャレンジの実践 ・保護者への情報発信	4 評価アンケート3. 5点以上 3 評価アンケート3. 0点以上 2 評価アンケート2. 5点以上 1 評価アンケート2. 5点未満	3	【3. 2】学校保健 睡眠日誌、ノメディアチャレンジ等への取組により、生徒たちの意識向上が見られた。家庭との連携を継続する必要がある。		
	部活動の充実	目標や意欲をもって生き生きと取り組む部活動を推進する。	・部活動休養日(週2日)の設定 ・顧問2人体制による指導の充実	4 評価アンケート3. 5点以上 3 評価アンケート3. 0点以上 2 評価アンケート2. 5点以上 1 評価アンケート2. 5点未満	3	【3. 2】部活動 生徒と教職員の評価は高いが、実際の活動の状況が保護者や地域に十分には伝わっていない面がある。情報発信を積極的に行いたい。		
業務改善	会議運営の効率化	会議時間の適正化を図る。	・企画会による課題検討、議題の精選等 ・時間内の会議の設定、事前の起案等	4 評価アンケート3. 5点以上 3 評価アンケート3. 0点以上 2 評価アンケート2. 5点以上 1 評価アンケート2. 5点未満	2	【2. 6】業務改善 会議内での各部の時間配分をあらかじめ割り振りしたり、早めに資料を公開したりすることで、やや改善が見られ始めた。	2	
	時間外業務時間の削減	職場環境の整備と校務分掌の平準化、これまでの取組の見直し等を図る。	・キャリアや能力に応じた校務分掌 ・風通しのよい職員室の雰囲気づくり推進 ・ノ残業デーの徹底 ・取組の見直し等	4 評価アンケート3. 5点以上 3 評価アンケート3. 0点以上 2 評価アンケート2. 5点以上 1 評価アンケート2. 5点未満	2	【2. 8】業務改善 今年度は生徒指導上の対応も多く、放課後会議を開くことも多かった。その分、対応後に残務に取り組むこともあり、多忙感があったと思われる。ねらいと効果を考慮に入れ、従前の取組内容の再検討も継続していきたい。		

<p>6 学校評価総括(取組の成果と課題) 町内の三校が連携して研修に取り組む、特にふるさと学習を核とする総合的な学習の見直しが進んだ。「付けたい心・力」が明確になり、各学年で目指す目標が子どもたちにも教職員にも明らかになったことで、自分たちの暮らす地域のよさや課題にもより深く気付きたいとする視点が育まれたと感じる。また、地域人材の活用等を通して道徳教育の充実を図る取組を進めることで、教職員の授業観が耕され、より子どもたちに考えさせる道徳授業づくりにつながっている。 一方、生徒指導上の課題も顕在化し、対応のための体制づくりに時間がかかったため、教職員の負担感を払拭できず、結果的に多忙感を招いた点が反省点である。また、コロナ禍において、行事やボランティア等の体験活動が十分に仕組めなかった点も否めず、生徒たちが「自分たちで考え、実行する」という課題解決型の体験を積み重ねる点に課題が残った。さらに、一人一台端末の活用状況が学校外に十分には伝わってこなかった旨の意見をいただいている。授業を中心とした諸活動でのタブレット端末の活用については、オンライン授業の展開も視野に入れながら、次年度以降も積極的に取り組む必要を痛感している。ただ、ツールの活用のみならず、授業そのものの質を高めるための研修にも十分取り組んでいく必要を感じており、道徳科以外の教科・領域の授業改善に組織的に取り組むたい。これらの根源となる学校経営ビジョンの明確化、取組の重点化が不十分な点が、今年度の課題のすべての要因であると考えられる。</p>

<p>7 次年度への改善策 (1) 学校経営ビジョンの明確化と重点化による業務改善への取組(生徒、保護者、教職員に分かりやすい重点取組事項の共通理解) (2) 学力の定着と向上(めあてと振り返り、見直しのある授業づくり、タブレット端末の有効活用等) (3) 課題解決型の学び、体験の重視(子どもたち自身が充実感を得る活動づくり) (4) 校種間連携、地域連携の充実(計画的な取組、カリキュラムへの位置付け) (5) 情報発信の工夫(ホームページの改善、学校だより等の発行)</p>
